

〔「広報うつのみや」(昭和25年4月1日発行)の中から、昭和を感じさせる懐かしい記事をご紹介します。〕



昭和の記憶

～あんとキの記事から～



季節保育所を開設

(広報うつのみや昭和44年6月1日号)

春の農繁期、田植や麦刈りに農家の大変忙しい時期です。そこで市は、6月28日まで春の季節保育所を平石地区(写真)をはじめ12カ所で開き、農家の幼児をお預りします。仲良く遊んでと思うと、泣き出したり、開所初日はてんやわんやの忙しさでした(原文のまま)。

(広報うつのみや昭和46年7月1日号)

農家が忙しい時期です。今年も清原・瑞穂野地区で3カ所の季節保育所を開きました。6月19日は清原北小の1年生約20人が保育所を訪問し、歌やゆうぎで子どもたちを楽しませました(写真は板戸公民館で)。

(一口メモ) 「季節保育所」は、保育所が相対的に少ない農村部において、特別の保育対策として昭和32年から始まり、年2回の農繁期に市内各地区の学校や集会所などに設置されました。現在は、公・私立併せて82園(認定こども園を含む)の保育所などが子どもの健やかな成長を支援しています。

暮らしと交通のいい関係

L R T

5月号でお知らせしたLRTの利用者数の見込みに引き続き、今回は、LRTの事業運営の手法と採算性の見直しについて説明します。

質問 LRTの事業運営は、赤字になるの?黒字になるの?

答え A「公設型上下分離方式」により営業主体の費用負担が軽減され、これまでに把握した利用者数をもとに試算した結果、継続的で安定した事業運営が可能であり、採算性が確保される見通しです。

■公設型上下分離方式

LRTなどの軌道事業については、法令により、走行に必要な施設を整備・保有し、運行を安全に行う必要があります。「公設型上下分離方式」



は、道路や公園などと同じように、市民生活に必要な公共性の高い施設として、LRTの走行に要するレールや停留場などの施設、車両などを公共(整備主体)が整備・保有し、交通事業のノウハウを持つ民間事業者などが営業主体として運行を担う事業方式です。この方式により、営

業主体は、整備主体から施設などを借り受け、施設使用料などを支払うこととなりますが、整備に



伴う初期投資や施設の更新などの費用負担が軽減されるため、継続的で安定した事業運営を行うことが可能となります。

■採算性の見直し

「公設型上下分離方式」による事業運営の手法と、これまでに把握したLRTの利用者数の見込みから



営業主体の収支構造について検証すると、LRTの優先整備区間12キロメートル(JR宇都宮駅東口～宇都宮テクノポリスセンター地区)の採算性については、平成21年度の調査において、1日当たりの利用者数を13,740人と推計し、平均運賃150円など、一定の条件のもとで収支を試算した結果、運賃収入などの収入額が、人件費・運行経費、施設使用料などの支出額を上回り、採算性が確保される見通しです(上の図参照)。

☎LRT整備推進室 ☎(632)2304

◎毎月1日はもったいないの日 日々の行動を振り返ろう 市では、地球上にあるすべてのものに、尊敬と感謝の気持ちを持ち、ひとやものを大切にする「もったいない運動」を進めています。日々、実践している行動をさらなる行動・実践につなげるために、月の初めに先月までの行動を振り返りましょう。☎環境政策課 ☎(632)2409

